

2 研究の実際

研究の実際

エ 中学校通常学級(1年)の取組

通常の学級に在籍する中学校1年生の生徒に対して、通常学級担任が、落ち着いた学級づくりをしたり課題への取り組み方のルールを工夫したりした事例である。

対象生徒は、友達と関わりながら学校生活を送ることができている。しかし、宿題が仕上がっていない等の不安な気持ちがある場合に、登校に不安をもったり、学校生活の中で情緒不安定な状態に陥ったりすることがしばしばある。

そこで、対象生徒が落ち着いて学校生活に取り組むことができるように、環境整備をしたり、学習内容や方法を調整・変更したりした。

P(決定)シート

意思の表明

本人	・みんなと仲良く学校で過ごしたい。
保護者	・登校への意欲につながるように、提出する宿題を確実に仕上げてほしい。 ・文章力を身に付けてほしい。
引継ぎ等	・小学校では、コミュニケーションや人間関係の形成に課題があり、言語障害通級指導教室に通っていた。

調 整

実態把握

学習面	・音楽でリコーダーを吹いたり、家庭科で裁縫をしたりする活動に取り組むことが得意である。 ・文字を思い出して書くことや、文章に表すことが苦手である。 ・体験したことを話すことはできるが、自分の気持ちを言葉で表現することは苦手である。
生活面	・宿題が終わっていないときや家庭で不安を感じた場合に登校をしぶるときがある。 ・忘れ物が多い。 ・担任がいらない日に不安定になることがある。
人との 関わり	・友達と関わることを楽しんでいるが、友達の話の意図を正しく把握できずに、泣きじゃくることがある。 ・その場から離れたい時に腹痛や頭痛を訴えることがある。 ・気持ちを切り替えることが難しい。
その他 (生育歴・ 検査等)	・多指症で乳児期に手術を受けており、筆圧が弱い。 ・WISC-Ⅲでは、境界の域にある。

検 討

【時 期】 6 月 巡回相談時

【参加者】 通常の学級担任、特別支援学校巡回相談員、特別支援教育コーディネーター

【内 容】 対象生徒にとって見通しがもちやすく、興味のある活動には落ち着いて取り組む様子が見られる。しかし、不安なことがあると突然泣き出したり、登校をしぶったりする様子も見られた。不安を感じる要因の一つに、書くことの困難さから、宿題を仕上げるできないでいることが考えられた。また、各教科等から出される宿題の把握が難しいことも考えられた。そこで、特別支援学校の巡回相談を活用し、対象生徒への支援の内容について以下のように検討した。

- ①宿題を見て分かるように提示する。
- ②帰りの会での一日の振り返りで自分の考えを表現することができるように、書く量を軽減したワークシートを準備する。
- ③不安定になったときに対応できる場所を確保する。
- ④友達との関わりが増すような学習活動を設定する。
- ⑤家庭における情緒安定のために、保護者との連携を図る。

合意形成

【時 期】 8 月

【参加者】 保護者、通常の学級担任

【内 容】 検討した①～⑤の合理的配慮の内容について提案し、合意形成を図り下記のように決定した。
また、2学期に見直しをすることになった。

決 定

長期目標

- ・安心して学校生活を送ることができる。
- ・主体的に宿題に取り組むことができる。

①教育内容・教育方法

- ・帰りの会での一日の振り返りで自分の考えを表現することができるように、書く量を軽減したワークシートを準備する。
- ・各教科から出された宿題を見て分かるように提示する。

②支援体制

- ・生徒同士が教え合う機会を設け、対象生徒への理解啓発を図る。

③施設・設備

- ・不安定になったときに対応できる場所を確保する。

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

*** <合理的配慮：3観点11項目> * 該当する項目に○を付けて下さい。**

①ー 1 教育内容

- (☐) 学習上又は生活上の困難を改善・克服
- (☐) 学習内容の変更・調整

①ー 2 教育方法

- (☐) 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- (☐) 学習機会や体験の確保
- (☐) 心理面・健康面の配慮

② 支援体制

- (☐) 専門性のある指導体制の整備
- (☐) 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発
- (☐) 災害時等の支援体制の整備

③ 施設・設備

- (☐) 校内環境のバリアフリー化
- (☐) 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備
- (☐) 災害時等への対応に必要な施設・設備

次回の検討予定日（10 月）

D(提供) - 1シート**長期目標**

- ・安心して学校生活を送ることができる。
- ・主体的に宿題に取り組むことができる。

決定した合理的配慮

- ・一日の振り返り等が書きやすいように、書く量を軽減したワークシートを準備する。
- ・各教科から出された宿題の内容等を見て分かるように提示する。
- ・生徒同士が教え合う機会を設け、対象生徒への理解啓発を図る。
- ・不安定になったときに対応できる場所を確保する。

実際の指導場面における合理的配慮の提供について**①教育内容・方法**

場面	対象生徒の目標	手立て
学習面	・文章を自分で書けるようになる。	・書く内容を学級担任と一緒に考えたり、書く量を軽減したワークシートを作成したりする。
	・宿題を提出する。	・どの教科から何の宿題が出されているかを把握できるように、各教科から出される宿題の内容等を一覧にして提示する。
生活面	・不安定になったときの対応ができるようになる。	・気持ちの切り替えができるような場所を確保する。 ・気持ちの切り替えをする場所における過ごし方のルールを明確にしておく。
行事等		

②支援体制

項目	時期	内 容
生徒への理解啓発	9 月～	・生徒同士が教え合う機会を設け、対象生徒の理解啓発を図る。
学年会議	8 月、10 月	・個別の教育支援計画等を基に、支援の仕方や役割を学年内で共通理解する。

③施設・設備

項目	時期	内 容
落ち着ける場所の確保	夏季休業	・不安定になったときに対応できる場所を確保する。

D(提供)-2シート**合理的配慮の実践****1 合理的配慮の提供場面**

学級活動「自分の良さに気付く」（自己理解、他者理解）

2 本時の目標

- 自己及び他者を理解し尊重する。
- 心身の健康な生活のために、明日の見通しを立てる。

3 合理的配慮を取り入れた本時の授業について

学級活動は、望ましい人間関係を構築し、自他の理解を促進させる時間と捉える。特に学習指導要領学級活動の活動内容における（２）適応と成長及び健康安全の中で、イ自己及び他者の個性の理解と尊重、才望ましい人間関係を構築、キ心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成を目指している。

本題材「自分の良さに気付く」ために取り組んだ「成長ノートを書く」活動は、一日の活動を振り返り、充実感やプラスイメージをもち翌日につながる時間と位置付ける。登校に不安をもつ生徒にとっては、振り返りを行うことで自己肯定感をもつことや活動の見通しをもつことで安心感が得られる。よって、翌日の登校につながる大切な活動であると考ええる。

本学級は、明るく活発な生徒が多い。男女の仲が良く、班活動の活性化によって自治的な風土の基盤ができつつあるものの、教科や場面によっては学習規律の再確認が必要なことがある。また、生徒間の学力には差が見られる。

そこで、学級全体に説明をするときには、授業のユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、話す内容の要点を押さえて説明したり、指示語やあいまいな言葉ではなく、簡潔で分かりやすい言葉を使って話したりする。対象生徒に対しては、振り返りがしやすいように、書く量を調整した穴埋め形式のワークシートを用いる合理的配慮の提供を行った。また、宿題忘れがあることで登校しづりにつながるものがあつたため、宿題の内容等の一覧を分かりやすく提示する合理的配慮の提供も行った。

4 対象生徒へ提供する主な合理的配慮

提供する合理的配慮
・成長ノートに文章を順序立てて書けるように、ワークシートを準備する。 ・宿題の一覧表を分かりやすくなるように提示する。

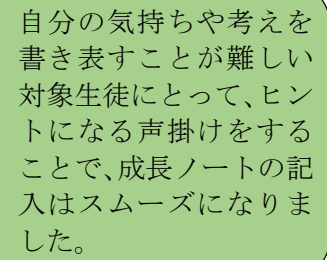
5 授業の実践

(◎合理的配慮 ☆対象生徒を含めた学級全体への配慮)

担任

対象生徒

学習活動	教師の働き掛け	取組の様子
【活動前】	・教科係である生徒が、各教科から出された宿題を確実に書き出しているか、継続的に声を掛けた。 ◎分かりやすい表記になるように、色分けをさせた。 ◎対象生徒に選択させる、ワークシートを準備した。	対象生徒にとって宿題の把握がしやすくなった上、他の生徒にとっても見やすく、分かりやすいものになりました。 対象生徒は、今日はワークシートを使うことを選びました。
1 今日の反省と明日の見通しを確認する。	☆生徒全員に黙想をさせ、落ち着いて取り組める雰囲気を作った。 ・連絡帳に翌日の時間割等を記入させた。 ☆個人や班の活動には、集中できるように時間計測を提示した。 ☆ほめタイム「今日のきりりさん」を設け、他者を認める感情を引き出した。 ・連絡帳を書いているか点検をした。 ◎連絡帳を書いていない場合は、指で指して確認させた。 <事前活動> ・係は宿題内容を記入 <帰りの会の内容> ・黙想 ・連絡帳記入 ・班の反省 ・学級の反省 ・今日のきりりさん ・成長ノート記入 ・明日の行事予定	「今日のきりりさん」の時間を設けたことで、学級全体が他の子を思いやる雰囲気につながっていると感じています。



-

3 宿題を確認する。

◎ワークシートの空欄を埋めながら、一日の振り返りをした。

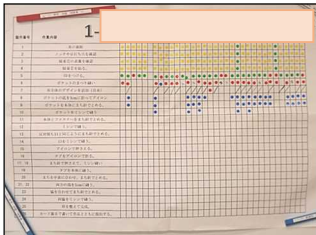
☆宿題をメモ帳に記録させた。

◎宿題の一覧表を写真に撮り、母親に送った
(放課後)。

D(提供)-3シート

合理的配慮の具体例

場 面	生活面	不安定になったときの対応
合理的配慮の内容		
・不安を感じた時に気持ちの切り替えができる場所を設定する。		
 【気持ちの切り替えをしている対象生徒】		学校でいくつかの不安が重なった場合に、対象生徒が過去に経験した出来事を思い出し、学級での活動に参加することができない場合がある。 そこで、気持ちを切り替えて学習に参加できるように、学級担任が常駐する家庭科準備室内に席を準備して、生徒が不安を感じた時に利用できるようにした。対象生徒は家庭科準備室で簡単な作業をすること等を通して学級担任と関わり、次第に気持ちを落ち着かせていった。学級担任が見守ることで、不安な気持ちの切り替えを図ることができるようになった。落ち着いた後は、気持ちが不安定になった要因を話すことができ、学級に戻ることができるようになってきている。 気持ちを切り替えを図ることができる場所を設定したことで、教室で落ち着いた生活を送れるようになってきた。

場 面	学習面	家庭科での生徒同士の教え合い活動
合理的配慮の内容		
・授業目標の活動内容が達成できている生徒とのペアでの活動を設定することで、生徒同士の支援体制作りを進めた。		
 【生徒同士の教え合い活動】  【工程一覧表】		手先を使った学習や作業は手順を理解することで主体的に取り組むことができる。しかし、作業の理解が難しい場合は、作業の取り掛かりや終了が遅れがちになることが多い。 そこで、家庭科での作業を伴う学習では、学習活動の目標が達成できている生徒とペアにする体制を採った。授業目標の活動内容が達成できている生徒は、工程一覧表のシールを確認し、遅れがちになっている生徒や支援が必要な生徒を把握して、手助けをする。そのため、作業中に教師が関わる時間が少なくても、対象生徒の作業の進行がスムーズになった。 このような学習形態を取り入れることによって、学級の中の生徒同士の相互理解が深まり、学級での対象生徒への理解啓発にもつながったと考える。

C(見直し)シート

見直し

検 討

【時 期】 10月

【参加者】 同学年の通常の学級担任、学年主任、教科担当

【内 容】 提供した合理的配慮の成果と課題について、対象生徒の活動場面の様子を振り返りながら話し合った。

成果と課題

- 一日の振り返りで自分の考えを書く活動では、書く内容を学級担任と一緒に考えたり、書く量を軽減したワークシートを使用したりしたことで、対象生徒は書く活動に自分から取り組むことができるようになった。
- 不安定になったときの対応を対象生徒と事前に確認したことで、対象生徒の気持ちの切替えが早くなった。
- 生徒同士が教え合う機会を設けたことで、周りの生徒に対する、対象生徒の理解啓発につながった。
- 家庭や学校で対象生徒が不安に感じる事が起きると、登校をしづる様子が見られた。
- 各教科の宿題の取り組ませ方については、教科担当と連携が必要である。

合理的配慮の変更点

- これまでの合理的配慮は今後も継続する。以下の2点については、今後取り組んでいきたい。
- ・関係機関との連携を図り、安定した登校につながる方略を探る。
 - ・同学年の職員が集まる会議の場で対象生徒への合理的配慮の内容について共通理解し、連携を図る。

合意形成

【時 期】 11月 個人面談

【参加者】 保護者、通常の学級担任、学年主任

【内 容】 今までの成果と課題や、変更した合理的配慮について提案した。
今後も随時見直しを行い、年度末には次年度への引継ぎについて話し合う予定である。



A(引継ぎ)シート

引継ぎ

【時 期】学年末休業

【参加者】同学年の通常の学級担任、学年主任、教科担当、特別支援教育コーディネーター

【方 法】 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、下記の内容を引き継ぐことにした。
新担任が決まった際は、会議の参加者が伝えることにする。

【内 容】 随時見直してきた以下の合理的配慮を引継ぎ内容とした。

- ・ 一日の振り返り等が書きやすいように、書く量を軽減したワークシートを準備する。
- ・ 各教科から出された宿題の内容等を見て分かるように掲示する。
- ・ 生徒同士が教え合う機会を設け、対象生徒への理解啓発を図る。
- ・ 不安定になったときに対応できる場所を確保する。
- ・ 関係機関との連携を図り、安定した登校につながる方略を探る。
- ・ 同学年の職員が集まる会議の場で、対象生徒への合理的配慮の内容について共通理解し、連携を図る。

事例を通した成果と課題

成 果

○保護者と連携した合理的配慮の提供

合意形成に至るまでに、必要に応じて保護者への電話、メール、家庭訪問をする等、密に連絡を取り合って、合理的配慮を決定した。その結果、保護者や対象生徒との信頼関係を築くことができ、家庭の協力を得ながら必要な支援を提供することができた。また、定期的な電話やメール、家庭訪問を行ったことで、対象生徒の状態をより適切に把握することができ、支援内容や方法を柔軟に変更・調整することができた。

○安心して学校生活を送ることができるようにするための合理的配慮の提供

対象生徒は、家庭や学校で不安を感じることが起きると、登校をしぶったり、学校で落ち着いて過ごすことが難しかったりする様子が見られた。そこで、学校で不安を感じる要因となっていた、宿題の把握の仕方に対する合理的配慮を提供した。各教科から出された宿題の内容等を一覧にして、視覚的に提示した結果、対象生徒は宿題の内容等を把握しやすくなった。対象生徒以外の生徒からも「宿題一覧があるから連絡帳に書きやすい」という声があり、他の生徒にとっても分かりやすい支援となった。

また、不安を感じたときに利用できる場所を確保して、その場所における過ごし方のルールを明確にしたことで、対象生徒は不安定になったときに自分で対応できるようになり、気持ちの切り替えが早くなってきた。

○書くことの負担を軽減するための合理的配慮の提供

対象生徒は、文章を書く活動に主体的に取り組むことが難しかった。そこで、帰りの会での一日の振り返りを書く活動で、ワークシートを使用して書く内容を減らしたり、担任が書く内容や順序についてアドバイスをしたりした結果、以前よりも書く活動に取り組むようになった。こうした活動を繰り返すことで、ワークシートを使用しなくても文章を書く姿が見られるようになった。

課 題

○対象生徒は、帰りの会の書く活動や担任が担当する教科の授業では、安心して活動に取り組むようになってきた。しかし、他の教科の授業等では、書くことの難しさから学習に参加することができない様子が見られた。そのため、各教科で対象生徒が書く活動に取り組む際に、ワークシートを準備したり、個別に言葉掛けをしたりする等の共通理解を職員間で図る必要がある。

○対象生徒は2学期から、登校をしぶる日が増えてきた。そのため、より専門的で具体的な支援方法の助言を得るために、巡回相談を活用する等、関係機関との連携を深める必要がある。また、家庭との連携も更に深め、合理的配慮の見直しを行うことが必要である。

平成28年度 個別的教育支援計画

記入者名： ○○ ○○

記入日：平成28年 6 月○日

○○ 中学校 1 年 ○ 組		校長名	○○ ○○	担任名	○○ ○○
ふりがな 氏名 ○○ ○○ (男・女)			生年月日：平成○年○月○日		
保護者名 ○○ ○○		家族構成	○ ○ ○ ○		
住所：〒 — — — — — TEL (— — — —)		緊急連絡先 (— — — —) ○○○○○○			
現在の生活、将来の生活についての願い					
本人の願い		保護者の願い		・登校への意欲につながるように、提出する宿題を確実に仕上げてほしい。 ・宿題や準備する物を把握させたい。 ・文章力を身に付けてほしい。	
本人の状況（学習面、集団参加・社会性、対人関係・コミュニケーション、他）					
学校		・技術・家庭科等の作業学習や理科の実験が好きである。 ・担任の手伝いをよくする。 ・座学の授業は寝ていることが多い。 ・聞き間違いや聞き漏らしがある。 ・登校をしぶることがある。			
家庭		・起床リズムが整わない。 ・朝は学校に行きたくない。家族に甘えたい。			
地域・関係機関					
支援の目標		・自分で宿題に取り組むことができる。 ・安定した学校生活を送ることができる。			
主な支援内容				支援者	
学 校	学級	・宿題の内容等を把握しやすいように、一覧を準備して提示する。 ・本人が不安定になったときに、安心して過ごせる場所を準備する。 ・重要な連絡事項はあらかじめメモを用意して、本人が確認しやすいように渡す。		学級担任	
	校内	・対象生徒に関わるそれぞれの立場から、本人についての情報交換をする。		学級担任、学年主任、教科担当	
家庭		・宿題や準備する物の一覧を担任からメールで受け取り、本人に確認する。		家族	
地域					
関係機関 医療、福祉、 盲・ろう・ 養護学校 等					
評価 及び 引継ぎ事項		・小学校ではコミュニケーションや人間関係の形成に課題があり、言語障害通級指導教室に通っていた(平成27年3月)。			

【合理的配慮シート】

〇〇 中学校 1 年 〇組 氏名 〇〇 〇〇

長 期 目 標
・安心して学校生活を送ることができる。 ・主体的に宿題に取り組むことができる。

提供する合理的配慮	評価
・一日の振り返りなどが書きやすいように、書く量を軽減したワークシートを準備する。	継続
・各教科から出された宿題の内容等を、見て分かるように提示する。	継続
・生徒同士が教え合う機会を設け、対象生徒への理解啓発を図る。	継続
・不安定になったときに対応できる場所を確保する。	継続
・関係機関との連携を図り、安定した登校につながる方略を探る。	追加
・同学年の職員が集まる会議の場で、対象生徒への合理的配慮の内容について共通理解し、連携を図る。	追加

【提供する合理的配慮を決定した日】

H28 年 8 月 〇日

児童生徒名 〇〇 〇〇

保護者名 〇〇 〇〇

担任名 〇〇 〇〇

学校長名 〇〇 〇〇

次回の検討予定日 H28年 10月 〇日

平成28年度 個別の指導計画 (実態把握シート)

記入者名：〇〇 〇〇

記入日：平成28年 6 月〇日

(ふりがな) 氏 名	〇〇 〇〇	性 別	〇	校長名	〇〇 〇〇
		学 級	1 年 〇組	担任名	〇〇 〇〇
生育歴：医療機関等からの情報（診断等）を含む		家 族 構 成			
・自閉スペクトラム症の診断を受けている。		〇 〇 〇 〇			
諸 検 査 の 結 果					
・WISC-III 全検査〇〇(境界域)					
共通理解を 図りたいことや 主な問題点		・小学校ではコミュニケーションや人間関係の形成に課題があり、言語障害通級指導教室に通っていた。 ・提出物が出せない不安から登校をしぶることがある。			
	児童生徒の状況			現在の対応	
各教科等 授業 宿題 他	・文字を思い出して書くことや文章に表すことが苦手である。 ・体験したことを話すことはできるが、自分の気持ちを言葉で表現することは苦手である。 ・授業中に落ち着きが無いことがある。 ・宿題忘れが多い。			・書く量を軽減できるようにワークシート等を準備する。 ・把握しやすいように宿題の一覧を掲示する。	
集団 参加 社会性 休み時間 給食時間 集団活動 他	・周りの雰囲気や状況を考えて行動することや最後までやり遂げることが苦手である。 ・順番やルールを守って行動することが苦手である。 ・不安定になると、集団の中で活動するのは難しいことがある。			・友達との関わりが増すような学習活動を設定する。	
対人関係 コミュニケー ション	・人の話に注意を向け、手足をそわそわさせずにいることや、最後まで話を聞くことが苦手である。 ・嫌なことがあっても感情を抑えて行動することが苦手である。 ・気持ちを切り替えることが苦手である。			・不安定になったときに、落ち着くことができる場所を確保する。	
興味・ 関心の あること	・音楽でリコーダーを吹いたり、家庭科で裁縫をしたりする活動が得意である。	苦手なこと		・他のことに気を取られず集中すること。	
本人の 願い	・みんなと楽しく、仲良く学校で過ごしたい。	保護者の 願い		・登校への意欲につながるように、提出する宿題を確実に仕上げてほしい。 ・文章力を身に付けてほしい。	
支援にあたる者 (支援チーム)	通常の学級担任、学年主任、教科担当、同学年の職員				